

悲しみ候へば少も寒き覺無之由、母の心を慰め候様に潔く爲申聞候。寒き躰少も爲見不申様にいたし罷在候。

一、右の通にて庄屋組頭も奇特の儀感入、飯米・鹽・味噌・薪等去冬以來遣候所、其身は一粒も是を給不申、母へばかり爲給、其身は近在へかけ廻り貰候て毎日を暮申候。貰付不申日も、澤山方々にて給候由母へ爲申聞、彼飯・鹽・味噌は給不申候。

一、老母淨土宗にて御座候。尤前々より後世に志深き者に候得共、近年は右の躰にて寺參も相成不申候所、つし毎朝寺へ參り說法承り、随分覺歸候て、段々母へ咄爲申聞、毎朝無斷絶參詣致し候儀も、村中驚耳目候。殊老母たばこ好物にて御座候。つしは至極のきらひに候へども、袖乞の内たばこを調へ、晝夜吸付候て爲給、夜中も伽仕り、母をいさめ申事毎夜同前にて、深更にも小屋の内賑ひ物音聞え、近所の者感入申候。つし生付正路にて惣て邪成儀相見え不申者に御座候。尤只今夫無御座候。かると申十六歳の娘一人持罷在候。是を近年人の所へ奉公爲致、少の給銀を取、是を老母の着物に仕候。

元文四年未三月 村山村組頭 權右衛門 印
同 孫右衛門 印
長百姓 作兵衛 印
杖付 市左衛門 印
右の通書付出候間奥印仕指上申候。以上。

新發田御頭地御役所
村山村年番大の村庄屋 加右衛門 印
矢作村年番庄屋 豐 八 印

右は溝口出雲守御預所、越後國蒲原郡村山村百姓道次郎名子につまと申女七十七歳に罷成、此者娘つしと申女、常に母へ孝行仕候由、村方より書付を以て訴出候に付、當村は勿論近村共に役人指出、委細相尋申候處相違無御座候。右孝心の仕方奇特成者に御座候。在所出雲守方よりは三俵爲取申候。則村方より指出候書付を以て右の段申上候。以上。

未 三月 溝口出雲守家來 寺田 兵太夫
三宅十右衛門

御勘定所
右達上聞候處、白銀二十枚被下置候。

一、題與市射扇的
青蛾誘射盪蘭漿。更令宗高執靶馳。船漂斜風難定鵠。馬凌狂浪恰如鷗。彎弓滿月懸滄海。放鎗奔雷響碧崖。朱扇應絃旋轉下。源平等稱養由基。
右嶋田忠四郎作。

一、慈宗夢得の一首
今茲九月三日夜慈宗御夢得の一首

一、青地禮幹夢得の下句
同月十二日夜某夢得の一首。但上句は忘れぬ。
ゆたかにきこゆ樂の聲かな

一、新架犀橋記

維北金澤府者、北陸道都會也。其地燥剛膏腴焉。其東南則連山千峯。鳥獸草木多之。金玉寶貨出之。其西北則大洋無際魚鼈生焉。珍珠殖焉。舟楫之利以通有無矣。犀水南出。淺水北流。帶護城基。實金城湯池也。淺水之源也。犀川谷之北境日尾山水。其他湯涌澗橫谷内尾菱池白見五箇準尾之之澗水。會同爲淺野川。瀕黑津湖入大野海。有大小二橋達大路。

矣。犀水者、石川河北二郡之界水。而眞源有二。其東澗則倉谷其西澗則二侯。各有飛流千尺。其他水上谷大障子谷菊潭出于此。内河堂山後谷等。數百山水合流爲一水。達宮腰浦。唯架一橋以濟焉。使北陸諸國人民一萃于此。無岐路之感也。固大路之要津也。漢書之津架之也歲月久矣。堅石之固岸。巨材之壯趾。自若而上板朽敗。將陷馬足。民以爲難矣。於是速於下游。流造舟爲梁。使行人不留滯。且使九里貞直富田景忠總司之改架之。二子召郡料匠。俗謂之補架匠。令之。工師鳩群材。衆匠劊之削之。或斧或鋸。屬夫傭者。日數千人。左右奔走。晨夜展力。竝手偕作。其繩則直。水上表柱。沙中蹲鴟。中者。謂之蹲鴟。橋柱下橫木之入沙中者。謂之蹲鴟。勢伴坤軸。犬牙相啣。魚鱗蜜次。徒杠輿梁之功。孟子。一齊斯成矣。橋勢宛々然。高欄翔々焉。俄見則如臥龍驚起烟波上也。今茲元文三年戊午二月十七日。載之。同冬十月十一日以告成矣。是則邦公餘澤。不朽盛事。且景忠貞直二子者。從事維賢之所致也。趙充國七十橋。杜元凱富平津。雖大小不同。然濟川之功何異之哉。水南潛夫栖遲息偃。竊觀往還者。若夫王孫公子。玄虬成行。騰驥揚々。或桑門開士。寬博衣裳。枯槁涼々。僂僂樵夫。濁質翁伯。素封大商。不